

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見、早期対応、再発防止に心がけ、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。また、積極的に児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行い、学校・家庭・地域と連携して、児童の自己肯定感を高めていきたい。 ・児童1人に1台タブレット型端末が導入されたので、各教科の中でICTを活用した授業を推進していきたい。調べ学習だけでなく、プログラミング教育等も進め、児童の創造性を高めるような教育を目指していく。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「美しい心をもち 自分で考え やりぬく子」の育成 ～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子 ～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 若葉授業（共通の指導・実践）と家庭学習習慣の定着による確かな学びの積み上げ ② 心の教育（道徳、人権・同和教育、UD教育、学級活動）による自己有用感の高まりと豊かな心の育成 ③ 出番・役割の設定→承認・称賛と共通の指導による規範意識・判断力、主体的な態度の育成 ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた新しい学校での生活様式の定着
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして、全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・学習スタイルとしての学習の約束を教室に掲示し学習の構えとともに、繰り返し指導する。 ・主体的・多面的に学ぶ力を伸ばすために、授業の中で児童相互に主体的対話的に関わりあう「友達タイム」を活用する。 ・スキルタイムでは、基礎・基本を中心に適時各学年で吟味し、高学年では活用力に関わる問題にも取り組ませる。 ・校内研究でユニバーサルデザインの視点に基づいた学習環境・授業づくりを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を中心に、UDの視点に基づいた学習環境作りや授業がどの教師もできている。特に、ICT機器の活用については、全職員が様々な教科で実践している。 ・学習の約束を守れていると答えた児童は94%で、ほとんどの児童が落ち着いて学習することができている。 ・各教科において、様々な場面において「友達タイム」を設定し、児童の主体的・対話的な学びの手立てとして取り入れている。 ・スキルタイムでは視写を中心に書く活動に取り組んでいる。94%の児童が読む力・書く力が高まったと感じている。 ・校内研究の柱の1つとして「授業のUD化」を掲げ、研究授業を行った。2学期末時点で10クラスが研究授業 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「若葉授業」「学習の約束」「スキルタイム」「ユニバーサルデザイン」に継続的に取り組んだ教師はほぼ100%であった。 ・全国学力学習状況調査や佐賀県学力調査の結果は概ね県平均を上回り目標を達成できた。 ・校内研はすべてのクラスで研究授業を行い研究を深めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・若葉フェスタや6年生を送る会を見せてもらったが、どの学年も落ち着いて児童は生き生きと発表していて素晴らしかった。 ・家庭学習調査や児童・保護者アンケートからも子ども達が前向きに学習に取り組んでいる様子や家庭が協力的なことが分かる。 ・全国学力学習状況調査や佐賀県学力調査の結果は概ね達成できているので、課題についてはしっかり取り組んでもらいたい。
	○タブレット端末等を使った授業実践による学力の定着	○ICT機器を利用した効果的な授業を行っている教師90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板、デジタル教科書、タブレット端末等を授業で効果的に活用した授業づくりに取り組み、研究授業等で公開していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末は1学期中に全児童に配付し、授業に活用しているところである。電子黒板やデジタル教科書と併用しながら授業作りを行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研のみならず通常授業の中でもタブレット端末を活用した多様な授業展開を実践することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・A評価は妥当である。 ・タブレットを使った授業に先生方がチャレンジしていることが分かった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 ○相手が嬉しい、心地良いと感じる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の終末に、これまでの自分の生活を見直し、これからの実践につなげられるよう、振り返りを行う。 ・ふれあい道徳を推進し、授業公開する。学級通信などで家庭への啓発を図る。 ・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に自他の良さを見つけ承認、称賛する。学校内だけでなく、地域や家庭にも参加してもらう。 ・「ふあふあ言葉」について、道徳の授業や学級活動などで取り上げ意識付けを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、道徳の授業ではこれからの実践につながる振り返りをしていくことを確認し、各クラスで実践中である。 ・2学期の授業参観で、7クラスが道徳の授業を公開した。3学期の授業参観では5クラスが授業公開する予定である。 ・児童の自己肯定感が上がるよう、今年度は自分自身の良さを称賛する「ほめほめカード」の回数を増やした。 ・各クラスで学期毎に、使いたい「ふわふわ言葉」を決め、積極的に使うよう意識付けを行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の終末の振り返りは、ワークシートの記入や発表により実践できた。 ・授業参観日が年1回しかなかったため、全クラスのふれあい道徳の実施はできなかったが、学級通信などを通して、道徳教育についての理解や啓発を行うことができた。 ・年間を通して「ほめほめカード」に取り組んだことで、自他の良さを確認することができた。運動会の際は、保護者にも記入してもらったことで、より喜びや意欲が増した。 ・思いやりや励ましの「ふわふわ言葉」をクラス毎に話し合っ決めて決めたことで、全クラス90%以上が進んで使ったと感じており、意識付けができていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・道徳が教科になったと聞いている。道徳の授業を通してこれからの心も一層、生命尊重や思いやりの心を育ててほしい。 ・「ほめほめカード」は、子どもの自己肯定感を高めるのにとてもよい取り組みである。特に、保護者にも参加してもらったことで、子どもにとっては褒めてもらえる機会が増え、よいと思う。今後も続けてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめは絶対に許さないという児童の意識、いじめが起これにくい集団づくりに取り組み、教職員アンケート、保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であればまると答えた割合が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uを年2回実施し、その結果をよりよい集団づくりを意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ・いのちを考える日」に、児童は毎月、保護者は学期毎にアンケートを行い、個人の悩みやいじめの早期発見・対応を学校全体で取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uは今年度も2回実施し、クラス毎に分析を行い、学級経営に生かしている。 ・毎月児童にアンケートをとり、保護者へも1・2学期にアンケートをとった。書かれていた内容についてはすぐに聞き取りを行い、いじめの早期発見・早期対応に努めている。 ・毎週水曜日の職員連絡会の折に児童についての情報交換を行い、小さな変化も見逃さず共有するようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uを実施並びに分析を行って学級経営の見直しを行った結果、学級の支持的風土が醸成され、特に「要支援群」の児童に対する支援が手厚くなった。 ・「いじめ・いのちを考える日」を活用して、いじめの加害者、被害者、傍観者について考えをもち、いじめは絶対に許さないという意識の高まりが見られた。 ・定期的な生徒指導に関する情報交換を行い、生徒指導上の諸問題を全職員で共有することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・A評価は妥当である。 ・アンケート結果からも、学校がいじめの早期発見及び早期対応に心がけていることがよく分かるが、職員アンケートで指導について「ほしい」と答えている先生がいたので、必ずこれからも子ども達の小さな変化を見逃さないようにしてほしい。
	◎志を高める教育	○「学校目標」達成に向けて、自分の考えをもち、実践・振り返りを行っているとした児童の割合が80%以上。 ○自分のめあてを設定し、意識して努力しようとする児童を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫で統一した「マナー教室」の中で全児童に学校目標達成に向けた自分の考えを発表させる。 ・各クラス学級活動(話し合い活動)の中で実践・振り返りを行い、行動を高めていく。 ・キャリアパスポートを活用して個人のめあてを設定し、めあての達成に向けて、 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に全学年児童を対象に、マナー教室を実施した。どの児童も学校教育目標に対して自分なりに頑張っていることを堂々と話すことができた。 ・クラスによって振り返りの形式は違いますが、個人のめあてに対する達成度を振り返る機会を設け、努力して自分自身を高めていこうとする意欲付けを行っている。 ・年度当初にキャリアパスポートの意義を児童と共有し、めあて達成に向けて、自分がどんな実践をしたかを見直す機会にしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「学校目標を知っている」と答えた児童は、98%であった。実践に向けてさらに行動意欲を高めたい。 ・児童アンケートで「正しい言葉づかいやマナーに気がつけている」と答えた児童は94%であった。低学年の児童でも挨拶やマナーがきちんとできている児童がよく見られる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・「マナー教室」はよい取り組みである。学校教育目標に関して、自分なりの考えや実践を話すという経験は、子どもにとって有意義なことである。 ・職員室を訪れていた低学年の子どもが挨拶の仕方がとても上手だった。マナー教室の成果だと思う。
○運動習慣の改善や定着化	○授業以外で運動やスポーツを行う時間を増やすために、休み時間等で外遊びをする児童を85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会で「クラスマッチ」を企画することで、呼びかけの機会を増やし、より参加人数を増やす。 ・学級で「みんなで遊ぶ日」を設定したり、晴れの日に外遊びの声かけや放送を行ったりする。 ・リレーカーニバルや水泳大会・なわとび大会などの体育的行事を行い、体力の向上を図る。 ・各クラススポーツチャレンジに積極的に参加で 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級で「みんなで遊ぶ日」を企画したり、晴れた日には運動場へ出るよう教師が声掛けを行ったりすることができた。 ・雨の日には、体育委員会が体育館での遊びを企画し、全校児童に参加を呼びかけ、運動することができた。 ・冬になるにつれて、例年運動する機会が減ってくるので、クラスマッチを企画するなどして進んで運動することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツチャレンジの実践を通して児童の体力向上を図ることができた。しかし、全校での取り組みは少ないので今後の課題である。 ・クラスマッチはコロナ感染拡大防止のため実施できなかったが、外で遊ぶ児童は多かった。休み時間等で外遊びをする児童は全体の84%であり、目標に達しなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、集団で活動することができないことで、子ども達がストレスをため込まないように見守ってほしい。 ・高学年や女子児童が外で遊ぶ機会を増やす工夫をしてもらっているため継続してほしい。 	

●健康・体づくり	○望ましい生活習慣の形成	○自分から進んであいさつをしている児童の割合80%以上を目指す。	・1年間の生活目標を「あいさつにあふれ、落ち着いた学校にしよう」とし、「合言葉」の「あかるく・いつでも・さきに・つづけて」の周知・徹底を図る。 ・あいさつについて学期ごとの具体的な目標を示す。 ・児童会・PTAが連携した朝のあいさつ運動を展開する。	B	・挨拶については、1学期に「元気にいつもあいさつをしよう」、2学期に「自分から続けてあいさつをしよう」、3学期に「心をこめてあいさつをしよう」という学期ごとの目標を立てた。1年間を通して挨拶の目標を立てたことで、地域の方や職員に挨拶をする児童が増えてきた。また、小中一貫教育の生徒指導交流部会の取り組みもあり、『させられる挨拶』から『進んでする挨拶』に変容が見られるようになった。	B	・年間を通して挨拶に関する目標を設定し、生活朝会で全校児童に伝えた。その結果、学期ごとの挨拶の目標を意識して、挨拶を行う児童が増えた。しかし、自分から進んで挨拶する児童はまだ多いとは言えない。 ・コロナ禍でPTAとの挨拶運動が中止になったが、児童会を中心に挨拶運動に取り組んだ結果、期間中はいつもより多くの児童が挨拶を行った。 ・挨拶に関しては、来年度も継続して指導を行う。	B	・評価は妥当である。 ・子ども達は、地域の中でもよく挨拶をしている。地域の中でも子ども達の態度も良い。 ・子ども達と先生達の関係がよくできているように感じられる。 ・コロナが収まり、学校と地域との交流を深められる機会が増えるといい。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日、特別校時とし、昨年度より下校時刻を30分早め、定時退勤時刻を先に決めて、それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。	B	・退勤時刻はとて遅い時刻はなくなり、全体的に少しずつ早くなってきている。退勤時刻を意識した働き方が浸透してきている。 ・定時退勤日の時刻も守れる日があった。	B	・退勤時刻が昨年より早くはなっているが、30分早くにはなっていないので、全員の意識を高めていきたい。 ・定時退勤を守れた日は少なかった。	B	・評価は妥当である。 ・先生が病気になるって休みを取られると子ども達も心配するし落ち着かない。先生方が心身共に健康で笑顔で子ども達の指導にあたってもらいたい。
	○業務の改善、軽減化 ○年次休暇取得の啓発	○いらないと思われる話し合いや会議を減らし、超過勤務時間が毎月平均30時以内を目指す。 ○各職員の年休取得日数が昨年度+3を目指す。	・勤務の効率化を行うために、職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。 ・仕事の負担の隔たりがないよう、均等に業務の割り当てを行うと共に、一人が孤立しないように、各プロジェクトチームで組織的に動く。 ・休業中の年休取得日数を具体的に示す。	B	・職員連絡をPCで行うこととした結果、提案文書の印刷や配布の手間が省けるとともに、会議の時間が短くなった。 ・2学期は大きな行事があったが役割を分担したり、互いにサポートしたりすることで効率的に運営ができた。 ・夏季休業中は年休取得が多かった。	B	・PCを利用した掲示板での職員連絡が浸透し、早めに業務をこなしている職員もいる。 ・学期初め、学期末を短縮校時にしたので、その期間の退勤時刻は早くなった。 ・冬季休業中の年休取得は多かった。	A	・評価は妥当である。 ・ICTを活用して少しでも業務の負担を減らしてもらいたい。 ・長期休業中はゆっくり休んでほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・毎週計画的に教科「日本語」の学習を実践する。 ・保護者や地域の方々への理解を図るために、全学級で毎年1回以上、授業参観等を実践する。 ・地域人材を積極的に活用する。	B	・教科「日本語」は、年間計画に基づいて計画的に実践できている。 ・地域人材については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんど活用できていない。3学期もコロナの状況を見ながら活用については検討する。 ・6年生は教科「日本語」の中で積極的にタブレットを活用することができた。	B	・授業参観が中止となったため、全てのクラスで教科「日本語」の授業公開ができなかった。 ・保護者に教科「日本語」に関する情報発信を行った割合は65%であった。 ・タブレットを活用したりリモート授業等を実践することができた。	A	・評価は妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で授業公開が行えなかったのは仕方ない。小中一貫だよりや学校だより等で情報発信がなされているが、できることを工夫して取り組んでいることがよく分かる。
○主体的な態度の育成	○学級活動や学校行事等子どもの出番・役割の設定 ○学級会を主軸に置く特別活動の取組	○学校行事の準備や計画、進行などを児童にまかせ、子どもの出番・役割を設定し、主体的な取り組みをしているという児童を90%以上にする。	・代表委員会を通して児童の思いを反映させた取り組みを行う。 ・集会や児童朝会、運動会の進行や準備などで子どもの出番・役割を設定し、主体的に活動に取り組ませる。 ・縦割り班での縦割り活動やあいさつ運動を年間を通して行い、児童に計画・立案・運営させる。 ・常に考える教育を推進し、小集団での話し合い活動を行う。	B	・コロナ対応で集会活動を思うようにできなかったが、各委員会や図書委員会による図書館まつりや体育委員会による雨の日の体育館活用など、できることを企画させ、計画・運営させることができた。 ・縦割り班による「元気タイム」も6年生を中心にできることを考えさせ、密を避けながら異学年で交流することができた。 ・運動会では、高学年を中心に進行や準備などの活動に取り組ませ、児童の出番や役割を設定することができた。	B	・コロナ対応で行事が縮小されたりリモートになったりした中でも児童の出番を工夫して与えた。 ・日頃から児童の出番や役割を設定し、主体的な態度を育てようという心がけている職員は97%で、児童の主体性も育ってきた。 ・保護者へ子ども達の頑張りを伝えることができたため、保護者アンケートで主体的な取り組みを学校がしていると感じる保護者が99%に達した。	A	・評価は妥当である。 ・若葉フェスタや6年生を送る会で子ども達が伸び伸びと進んで活動している様子を見て、主体性が育ってきていることがよく分かる。この体験や経験が子ども達を成長させることに繋がっていくと思う。
○自己有用感の向上	○学校・家庭・地域一体となって承認・賞賛する開発的な関わり	○自分や友だちのよさに目をむけ、承認・称賛する取り組みを通して自己肯定感を高めていき、保護者アンケートで、承認・称賛することで温かな環境づくりに取り組んでいるという割合を90%以上にする。	・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に学校・家庭で取り組み、本校2階のきらきら通りに掲示すると共に温かな環境づくりに努める。教師の積極的なカードの取組を促す。 ・PTAとの連携を図り、心豊かになる教育講演会を実施する。 ・全学級、ショートで友だちの承認・称賛のコーナーを設け、取り組む。	B	・昼の放送で毎日のように「ほめほめカード」の紹介ができています。 ・運動会では保護者に我が子の頑張った姿を「がんばったカード」に書いてもらい、掲示することができた。 ・きらきら通りの「ほめほめカード」が少しずつ増えてきた。	A	・保護者アンケートで「子ども達を称賛・承認する取組を行い、自己肯定感を高めようとしている」との問いに97%の保護者があてはまると回答している。学校での取組が見える形で情報発信ができていと言える。 ・コロナ感染症のためにPTAの教育講演会など中止する取組も多いが、できることは工夫して行ってきた。	A	・評価は妥当である。 ・褒められると誰でも嬉しいし、意欲も高まっていくと思う。先生達には、子ども達が当たり前でできたことを認め褒めてもらって、どんどんやる気を引き出してもらいたい。

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重する心、他者への思いやりを育て、いじめが起これにくい集団づくりに継続して取り組み、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。 ・積極的に児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行い、学校・家庭・地域と連携して、児童の自己肯定感を高めていく。 ・タブレット型端末を活用した授業を手探りながらも始めているので、来年度のICT利活用授業研究で先進的な取組を参考にしながら、あらゆる可能性を目指した指導の工夫を推進して、授業公開に臨む。 ・来年度は特別支援学級は2クラス減になるが在籍児童は3人減で人数はほぼ変わらない。1クラスあたりの人数が増えることになるので、特別支援学級や通常学級、管理職等の連携をさらに深めていく。
----------------	---